

絵本「だるまさん」が人気

「だ・る・ま・さ・ん・が」。体を左右に揺らしながら読むこの一節に反応する子どもも多いのではないだろうか。かがくいひろしさんの人気絵本「だるまさん」シリーズ(全3作、ブロンズ新社)が今年、発行10周年を迎えた。ロングセラー作品が多い絵本界で、わずか10年でシリーズ累計603万部を売り上げた異例の人気作。山陰両県の読み聞かせ会でも定番となっていてファンも多い。その魅力に迫った。

(増田枝里子)

読み聞かせ会 山陰でも定番化

シリーズは「だるまさんが(2008年1月発売)」「だるまさんの(08年8月)」「だるまさんと(09年1月)。独特な表情の「だるまさん」が「だ・る・ま・さ・ん・が」のリズムに

合わせて体を揺らした後、「どてっ」「びろーん」「ぶっ」など、さまざまなおぼろげな表情を見せ、笑いを誘う内容だ。

「だるまさん」シリーズ



▼累計貸し出しトップ3

松江市浜乃木7丁目の島根県立天松江キャンパス内にある絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」では、11年春の開館当初から3作をそろえる。開館以来、貸し出しの常連となり、数々のロングセラー作品を抑えて7年間の累計貸し出し回数トップ3を独占している。



子どもへの読み聞かせで、「だ・る・ま・さ・ん・が」と言いながら体を動かす学生—松江市浜乃木7丁目、おはなしレストランライブラリー

代表の岩田英作さん(55)は、子どもたちの読み聞かせ会だけでなく、大人の忘年会でもこのシリーズを読み、みんな楽しんでくることがあるほどのファンで、「シンプルだが、極めて効果的にまとめられている。作者のかがくいさんの才能だ」と評価する。

岩田さんによると、かが

「子どもご機嫌に」「親子で楽しめる」

くいさんの絵は「丸っぽい」形をして「やわらかい曲線」で描かれている。だるまさんも、丸さが象徴的。さらに目がはっきりと描かれており、体は鮮やかな赤色で目を引く。子どもは、顔や目が大好き。安心し、癒やされる表情のだるまさんは子どもの心を奪う」と分析する。

▼驚異の増刷回数

人気ぶりは増刷の回数で物語る。「が」は266刷、「の」196刷、「と」198刷。出版したブロンズ新社(東京都)によるとわずか10年間でこれほどの増刷は珍しいという。「どんなに泣いている子どももご機嫌になる」「親子で一緒に楽しめる」といった点が人気の理由とみる。

おはなしレストランや、地元の小学校などで読み聞かせ活動を行っている県立大短期大学の中西そよ香さん(20)は「これを読むと必ず受けるし、読む側も楽しい」と実感。春井麻更さん(20)は「高校時代から読み聞かせの定番だった」と振り返る。

作者のかがくいひろしさんは出版後、まもなく病気で亡くなっている。岩田さんは「生きていたら(人気がぶりに)びっくりされたのではないだろうか」と想像し、「これからもロングセラー絵本と並んで、読み継がれるシリーズになるだろう」と話している。

シリーズは各850円(税別)。

島根県立大

英語民間試験 必須にせず

21年度 2学部と短大部入試

島根県立大（本部・浜田市野原町）が18日、大学入試センター試験に代わり2020年度から始まる「大学入学共通テスト」の基本方針を発表した。看護栄養学部、人間文化学部、短期

大学の21年度入試で、共通テストの英語で導入される民間資格・検定試験を必須にしない方針を示した。民間試験を受けにくい地域性を重視したとしている。

島根県立大は、2学部と短期大学の21年度一般入試で共通テスト受験が必須となる。共通テストの英語は、23年度までマーク式と

民間試験が併存するが、同大は、民間試験は「受験生の任意」とした。民間試験を受けた場合も評価の対象とし、加点方法などは今後、検討する。

同大アドミッション室によると、英語の民間試験は受験料が高く、島根県内では会場が少ないため、地元受験生にとって不利になると判断したという。

他に、2学部の推薦入試、AO入試で共通テストを実施しない区分を設ける。共通テストでは、文系でも受験が可能な理科の科目を選択できるようにする。総合

政策学部は21年度に地域系学部と国際系学部に改編するため、入試制度は検討中としている。

共通テストの英語では、島根大と鳥取大が21年度の一般入試で、受験生にマーク式と民間試験の両方を課す方針を明らかにしている。

（鎌田剛）